しろちどり

第 100 号

2019 年 7 月
日本野鳥の会三重 http://miebird.org/

～しろちどり 100 号に寄せて～

想い出は「しろちどり」とともに

度会町　小坂 里香

「しろちどり」100 号記念号ということで、私には特に感慨深いものがある。というのは、私の三重県での歴史が、「しろちどり」の刊行とともに始まっているからである。

1993 年、神奈川県から伊勢市に転居。すでに入会（東京支部）していた日本野鳥の会に、支部の移籍ができるか問合せたところ、三重県に支部はなく、もともとあった三重野鳥の会がこれから支部として認定されるのだという話であった。

そこで支部発足と同時に移籍だったか入会だったかして、真っ先に参加したのが大湊での探鳥会だった。現在は埋め立てられてしまったが、当時はまだ堤防内に養魚池がたくさん残っていて、野鳥が多く見られる場所であった。探鳥会では吉居さん、林さん、西村さんといった南勢地区の仲良しグループに初めてお会いし、その、女性を中心としたサロンのような野鳥仲間に入れていただいた。そして、みなさんとツバメ調査や剣峠の調査、サシバの渡り観察、しろちどりの発送作業などをご一緒する中で、特に個人的な知縁のない土地での生活にも慣れ、野鳥を仲立ちとした人々の輪が広がって、今日に至っている次第である。

「しろちどり」が刊行された際には、確か 1 号かそこらに「鳥の名前」と題した小文を寄稿させていただいた。平井さんの筆によるシロチドリのイラストが表紙を飾っていたと記憶するが、それ以前の三重野鳥の会時代の会誌のバックナンバーが、ページ数も多くきちんと製本されていたのをいただいていたのに比べたら、A4 のコピー用紙に印刷された薄い「しろちどり」は何とも頼りなく感じられたのを覚えている。考えたら、以前の会誌「あおさぎ」は確か年刊だったと思うので、立派なのはいわば当然で、後日、自分で「しろちどり」の編集に携わるようになって、その A4 冊子を定期的に発行することの苦労を思い知ったのであった。

オオルリ

目次

表紙の言葉 ---------- 2
～しろちどり 100 号に寄せて～ ---------- 2
　想い出は「しろちどり」とともに ---------- 2
　リトルターン（コアジサシ）---------- 4
　会報しろちどりの思い出 ---------- 5
オシドリの減少　―ガンカモ調査速報― ---------- 6
ボナパルトカモメ観察記 ---------- 7
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 ----- 8
　―連載第 16 回　カラフトアオアシシギ、ソリハシシギ―
中井さん　ありがとうございました ---------- 13
2019 年　足見川へのサシバ飛来 ---------- 14
国際サシバサミットへ参加してきました ---------- 15
経ヶ峰風力発電計画に対する津市長の意見 --------- 15
野鳥記録 ---------- 16
巣箱でのフクロウの繁殖 ---------- 19
事務局だより ---------- 19
今後の探鳥会予定 ---------- 20
探鳥会報告（2019 年 3 月～ 2019 年 5 月）---------- 20
編集後記 ---------- 24

表紙の言葉

名張市　田中 豊成

シロチドリ

会報しろちどりが、100 号となりおめでとうございます。会員さん達が長年積み立ててこられたのが、結晶となった感があります。シロチドリは、県の鳥であり会報の名にもなっているので、今回は雄成鳥の夏羽の絵にしました。近年は、繁殖が少なくなっていますが、繁殖はしています。

海岸を観察すると、群れで見られたりして小さいながらも、我々を楽しませてくれます。会として、引き続き繁殖地を確保し保全してあげたいものです。

当時、たぶん「期待の新人」であったのか人手不足の表れか、しばらくして理事の役を仰せつかり、探鳥会リーダーなどもしたりしているうちに、子どもを授かった。それで活動休止かと思いきや、「しろちどり」の編集長をすることになり、南勢地区の編集メンバーに乳児のお守りをしてもらいながら、自宅で編集会議をしたりして、2001 年からの 2 年ほどであったと思うが、企画、原稿の依頼やレイアウト作業など、やりがいのある仕事をさせていただいた。

また、編集をバトンタッチした後は、子育ての傍ら、「今日も鳥日和」なるマンガを数号連載。新しい鳥仲間との出会いもあり、本格的に野鳥写真を始めたりして、思えばあの頃がいちばん熱心に野鳥観察に打ち込んでいた日々であった。

そして 2004 年頃、時流に乗って三重県支部もそろそろホームページを、という提案をしたら、お前がやれという話になり、当時は仕事も自宅で内職をしていたくらいで時間があったので、編集ソフトを入手し、どうにか支部の紹介、保護活動、行事案内、などなど、掲載する材料を寄せ集めて立ち上げた。探鳥地ガイドを作成するのに、あちこち走って写真を撮り地図を作製したのが、楽しくもたいへんだった覚えがある。ホームページで野鳥記録の投稿を募集し始めたのもそのころのことである。

1994 年頃の理事忘年会での集合写真。既に鬼籍に入られた方もおり、当時が偲ばれる写真である。

しかし、今ほどホームページの重要性が認識されていなかったせいか、更新情報も少なく、保護問題を掲載しようと思っても原稿の書き手もなく、いつしか仕事が忙しくなって、表紙画像、探鳥会案内の更新をたまにするくらいのおざなりなものになってしまったのを、今でも心苦しく感じている。

現在では「しろちどり」、ホームページとも、担当者がたいへん熱心で、ソフトもサーバーも一新し、プロフェッショナルな仕事をしてくださっており、感謝に堪えない。自分で携わっていただけに、ご苦労がよくわかるのである（といいつつ、原稿締め切り遅れてごめんなさい）

これからも途切れることなく、ますます充実した内容で刊行されることを期待している。それには会員皆の協力が必要不可欠であることは言うまでもない。

しろちどり 43 号掲載「今日も鳥日和」

～しろちどり 100 号に寄せて～

リトルターン（コアジサシ）

桑名市　近藤 義孝

私が「しろちどり」の編集を担当したのは 55 号から 72 号までだ。2007 年 8 月～ 2012 年 7 月、後半は平井代表がほとんど仕事をしてくれた。

57 号で三重県に関係した小説・民話・短歌・俳句に登場する鳥類を特集した。

最初に載せたのは

「いせのうみ　ゆなきわたる　つるのおとどろも きみしきこさば　われこひめやも」

現代語訳すると「伊勢の海から鳴いてくる鶴のように、便りだけでもあなたがお伝え下さったなら、私はどうして恋に苦しむことがあったろう」

この時には書かなかったが、奈良の大仏を建立したことで有名な聖武天皇の万葉集の歌碑が、四日市市富田駅近くの松原公園にある。

「いもにこひ　あがのまつばら　みわたせば しほひのかたに　たづなきわたる」

現代語訳すると「妻を恋しく思いながら松原から海辺を見渡せば、潮が引いた干潟に鶴が鳴きながら飛び立ったよ」

聖武天皇の時代には政争があり、疫病や災害が多く起こった時代である。続日本書記には、天平 12 年（西暦 740 年）伊勢国を行幸になり、11 月に一志郡河口をたち、鈴鹿郡赤坂頓所を経て、23 日に朝明郡の頓宮に着かれたとある。このときに歌われたと思われる。

話は変わるが、5 年ほど前から、ガラ携（携帯電話）に代わりスマートフォン（スマホ）に換えた。スマホに換えてから YouTube をよく使うようになった。鳥の好きな人は鳥の鳴き声をその場で確認できるツールとして利用している人もいる。私は画像を見るのではなく、朗読を聴くツールとして使う。YouTube を使うようになって、山本周五郎や夏目漱石、芥川龍之介など多くの作品を聴くことができた。また、ラジオなどで放送された対談や講演も聴くことができた。ある日、五木寛之氏の萬田久子氏との対談「すてきに人生」を YouTube で聴いた。時代は 2001 年、バブル崩壊からしばらくたっても立ち直れない日本で多くの人が自信をなくして暮らしている。五木氏は『リトルターン』を訳本として出版した。飛べなくなった鳥の話である。リトルターンとはコアジサシの英名である。

コアジサシ

コアジサシと聞いて、突然興味がわいた。すぐに取り寄せて読んでみた。わずか 94 ページ、挿絵がいっぱいの本であった。あっという間に読んでしまった。

「『カモメのジョナサン』はめちゃ元気のいい鳥の話だった。・・・ところが、この物語の主は格好いいカモメなどではなく、アジサシである。彼は高く飛ぶどころか、なんだか訳のわからないままに、突然飛べなくなってしまうのだ。・・・・・

思うに二十世紀は高く飛ぼうとする時代だった。いまは逆に飛べなくなって呆然としている鳥たちの時代だ。そういう時に、この物語が登場するというところがおもしろい。・・・」

訳者／あとがきにかえてより

私は 2014 年にそれまで勤めていた高等学校の教員を退職した。何も失敗のない人生だったのだろうか？いや、そうではない。仕事をしていればミスはある。人を相手にすれば自分だけで済まない。そんな意図は無いのに、結果として人の心を傷つけ、多くの人に迷惑をかけてしまったこともある。落ち込んだ。自分がいやになった。でも、何とかなった。

鳥を観察すると、採餌行動、繁殖行動、渡り、休息などが見られる。私たちも食事をし、結婚し、子育てをして、旅をして、休息する。餌を採り損なった鳥のように、仕事の失敗はいつもある。でも、めげずに鳥が繰り返して餌を採りに行くように、仕事にも取り組む。立ち直ることはできるのだ。

リトルターンは飛べなくなった。ユウレイガニと友だちになり、飛ぶことができるようになった。私の周りには日本野鳥の会の友人や、仕事で同僚だった人、高校や大学の同窓生などユウレイガニのようなすてきな友だちがいて、楽しいことがいっぱいある。

さあ、飛ぶことにしよう。

～しろちどり 100 号に寄せて～

会報しろちどりの思い出

津市　平井 正志

我々の会報も 100 号を記念することになった。創刊当初から何かと関係してきたので、その思い出を少し、語ってみたい。

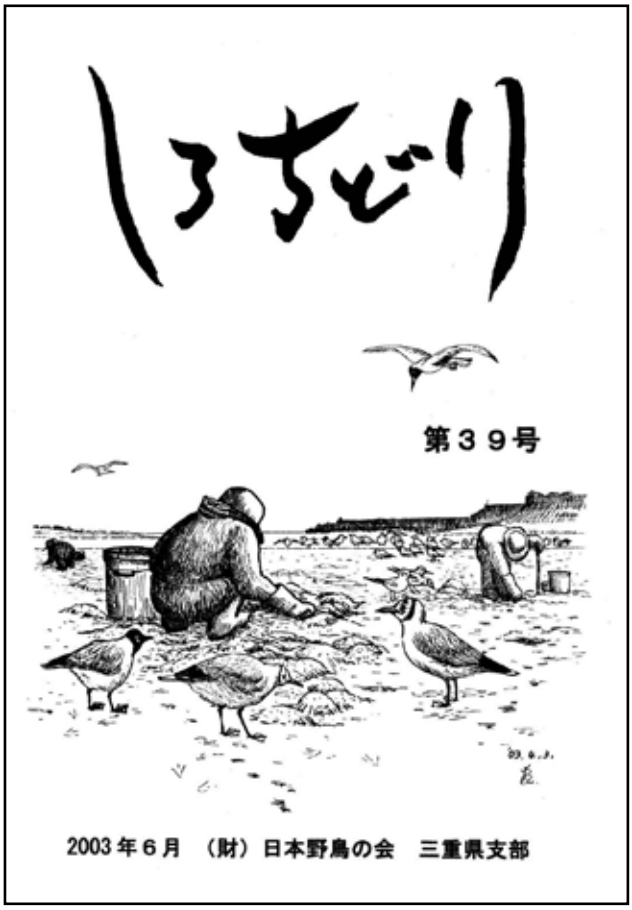
編集に携わったのは 39 号から 54 号まで、それと 76 号以降現在までである。

橋本太郎氏の特集を組んだのは 2005 年であった。その頃は津の数名と編集会議をし、太郎氏のご子息　橋本理市氏の御自宅を伊勢に訪ね、太郎氏の生い立ち、思い出でなどを語っていただき、記事にした。太郎氏は専門の鳥類学の教育を受けたわけでもないが、熱心に野鳥について調べ、かつ標本作りはすばらしい技術を会得した。当時の鳥類学では標本を集めることが重要な仕事であった。三重の誇る鳥類学者といえよう。彼の作成した標本はいくつかの博物館に収蔵されている。三重県総合博物館にも多数が収蔵されている。太郎氏の剥製はその中でも特に素晴らしい出来である。また、彼は三重県内の野鳥の記録を多く残している。ほとんどが自費出版という形を取っており、一般に広くは出回っていない。しかし、貴重な記録であり、鳥類目録などを作る際のベースとなる情報になっている。県立図書館には蔵書があり、閲覧できるので、興味ある方は一読されたい。2005 年の 46 号が橋本太郎氏の特集号であり、当会のホームページからでもバックナンバーを閲覧できるので、見てほしい。

もうひとつの印象に残る号は 2012 年発行の 72 号タカ渡りの特集である。伊勢の吉居 清・瑞穂さん御夫妻は長らく伊勢でタカ渡りの調査をされてきた。渥美半島、伊良湖岬では故辻氏らにより長らく調査されてきたが、対岸の伊勢側での調査は吉居さんご夫妻によるところが大きい。伊良湖で飛ぶ数と伊勢で飛ぶ数は大きく食い違う。
伊勢以外に上陸する個体や、三重県側に上陸してからのねぐらなど解明されていない点が多々あった。また、伊勢上空を通過するサシバも年々減少していた。その後ご夫妻が継続調査を断念されてから、伊勢の会員によってサシバの渡りは調査されてきたが、ご夫妻のような継続調査は出来ていない。少なくなったとはいえサシバの重要度はさらに増している。再び継続調査が再開できるようにしたいものである。また、内陸の渡りは十分に解明されていない。この 72 号は当会の財産のひとつになったのではなかろうか。

四日市の鹿島素子さんは、しろちどり 30 号以降、しばしば表紙絵を描いている。特に 39 号はなんのこともない潮干狩りとユリカモメを描いているのだが、ほのぼのとした温かみのある絵である。また、9 号以降に連載された探鳥地マップでは彼女はイラストを受け持ち、細かな鳥の絵、探鳥地周辺の様子のイラストで、独特の世界を描き出している。残念ながら、連載は 8 回で終わってしまった。

会報は貴重な情報元である。野鳥記録などさらに充実させて行きたい。最近は文章を書く人が少なくなったような気がする。心あたたまる文章、粋な記事等々、会員諸子の投稿に期待したい



オシドリの減少　―ガンカモ調査速報―

津市　平井 正志

毎年１月に行われるガンカモ調査では三重県内のガンカモ渡来地を野鳥の会担当地と三重県直轄担当地に分け、調査してきた。野鳥の会担当地についても以前は三重県から当会に調査が委託されてきたが、昨年に引き続き、本年、2019 年１月の調査も三重県からの資金は得られず、当会独自資金による調査であった。なお県直轄の調査では環境関係職員と鳥獣保護員で分担して調査している。全体の集計はまだ完成していないが、調査結果の一部を紹介したい。

オシドリのつがい　撮影：今井 光昌

オシドリは会員にも人気のカモである。これまでの調査結果を表に示す。

2019 年１月の調査では松阪市宝光池で 175 羽をかぞえた。この池は松阪カントリークラブ内にある溜池で、一般の人々は入ることができず、プレーのない日に、特に許可を得て、調査している。

また志摩市にある神路ダムでも 86 羽を数えた。このダムは上水道の水源地であり、一般の立ち入りが禁止されている。ただし、当会では本年、2019 年 11 月 24 日に探鳥会を予定している。

現在データの得られている当会の担当している越冬地に限っていうとオシドリの数は昨年より、やや増えている。しかし、1990 年代には多数のオシドリが観察された安濃ダムでは近年ゼロが続いている。また、これまでオシドリがしばしば記録されていた青蓮寺湖や真泥池でも見られなくなっている。その他、少数のオシドリが越冬する池が数箇所あるが、カメラマンが押し寄せる危険性もあるため、表ではアルファベットで示す。その他に三重県直轄調査地の尾鷲のクチスボダムではかつて多数のオシドリが観察されたが、近年は少なくなった。

表　三重県内のオシドリ越冬地と越冬個体数

調査年		2015	2016	2017	2018	2019
地名	担当					
A	当会	*	*	*	*	35
安濃ダム	当会	13	0	0	0	0
君ケ野ダム	当会	3	0	60	0	38
B	当会	3	0	0	0	25
宝光池	当会	656	512	204	57	175
C	当会	0	32	4	3	10
神路ダム	当会	430	550	132	150	86
青蓮寺湖	当会	1	0	0	0	0
真泥池	当会	0	3	0	0	0
D	当会	26	0	0	0	0
E	当会	0	0	0	10	0
F	当会	8	10	10	13	16
津市水道貯水池	三重県	11	9	7	6	未公表
クチスボダム	三重県	182	32	0	20	未公表
三重県合計（当会調査地のみ）						385
三重県合計		1,399	1,170	465	273	未公表
全国		31,903	30,841	28,712	26,248	未公表

注：全国の集計値は環境省ホームページによる。三重県内の集計値は三重県みどり共生課の提供による。
いずれも調査年の1月に調査した集計値を示している。

三重県のオシドリの越冬数は急激に減少している。なぜなのだろうか？全国的にも減少傾向であるが、さほど急激な減少は見られない。オシドリは警戒心が強く、外敵を警戒して水辺の木の陰に隠れることが多い。また、いずれの越冬地もオシドリに近寄ることが難しい。一般の人々が出入りでき、きちんとオシドリが保護できる越冬地が県内にもほしいものである。

ボナパルトカモメ観察記

桑名市　山神 勝治

2019 年 5 月 1 日～ 2 日にかけて、珍しいカモメを観察しました。このカモメをボナパルトカモメとした経緯をここに記しておきます。

1 日目　ボナパルトカモメの撮影状況について

5 月 1 日、この日は曇り空でした。何時もの様にスコープ（30 倍）で遠くの堤防の鳥を探しているとユリカモメのそばにユリカモメより一回り小さなカモメを発見した。よく見てみると嘴が黒い、ズグロカモメかな？と思い写真を撮った。

鳥までの距離は 100m と非常に遠い。デジスコの焦点距離、1500mm で撮ったのが下の画像。

ボナパルトカモメの識別

家に帰ってパソコンで画想を拡大トリミングしてみた。(写真 2)

写真 1

①ユリカモメより一回り小さいことが解った。（写真 1 で右側がユリカモメ）
②嘴が黒い。このことからユリカモメではないと判断した。
③嘴がズグロカモメより細く長い。このことからズグロカモメでもないと判断。

ユリカモメでもなく、ズグロカモメでもない嘴の黒いカモメで浮かんだのがボナパルトカモメです。

写真 2

画像が不鮮明であるが、足はかすかに赤みがかっているのが分かる。

2 日目　再撮影

ボナパルトカモメらしいと解ったので、もっと近くで鮮明な写真を撮りに出かけた。5 月 2 日は、晴れだったがカモメは前日と同じぐらいの遠さにいた。写真 2 と同じように拡大トリミングしたのが写真 3 である。

この画像からも嘴が黒いことが分かる（堤防や海の色は白黒では無い）。

画像が不鮮明でボナパルトカモメの特徴である嘴の色が黒く、足の色がピンク色との判定不能との事ですが、上記に示したように嘴が黒く、足も赤みがかっていることが分かります。

写真 3

≪編集部より≫　　四日市　三曽田 明

ユリカモメの冬羽に似て、三重に飛来する可能性がある小型のカモメには、ズグロカモメ (*L.saundersi*)、ボナパルトカモメ (*L.philadelphia*) の他にヒメカモメ (*L.minutus*) がいる。嘴の形状からもズグロカモメは否定できるが、ヒメカモメである可能性は否定できない。両者を見分けるには、初列風切の下面の色、もしくはより解像度の高い写真で頭部の灰黒の斑のパターンを見る必要がある。

投稿写真は解像度、コントラスト共に低いため微妙ではあるが、頭部の斑のパターンはヒメカモメではない印象を受ける。よって、ボナパルトカモメとは断定できないが、ボナパルトカモメである可能性は高いと考えられる。

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 16 回　カラフトアオアシシギ、ソリハシシギ―

津市　今井 光昌

アオアシ（青足）と名のつくシギにアオアシシギ、コアオアシシギ、カラフトアオアシシギがいます。3 種とも足は黄緑色です。アオアシシギは渡りの時に日本各地で見られる普通種ですが渡来数は多くはありません。三重県では春秋の渡り共に大きな群れは見られず、2018 年迄は最大で 20 数羽でしたが、2019 年春に曽原大池で 53 羽を数えました。アオアシシギは三重中部の海辺で 2011 年から越冬するようになり、2013 年以降、10 羽前後の越冬が続いています。

コアオアシシギはアオアシシギに比べて渡来数が少なく、特に春の渡りは 1～2 羽と少ない。秋には 10 羽前後の幼鳥の群れを見ることもあります。三重県では 10 数年前に松阪市で越冬していますが、それ以降は 2018 年迄、越冬記録はなく、2019 年に幼鳥 1 羽が曽原大池で久しぶりに越冬しました。カラフトアオアシシギはコアオアシシギより更に稀な旅鳥です。三重県での記録は 2002 年 9 月と 2018 年 8 月に渡来した幼鳥 2 個体しかありません。

体形の比較（幼鳥）

全長はアオアシシギが 30～35cm、コアオアシシギは 22～25㎝とアオアシシギより体がずっと小さく、スマートな体形をしています。カラフトアオアシシギの全長は 29～32cm で、足が短く、コアオアシシギのような細身の体形ではありません。この 3 種は体の大きさや体形の違いで識別出来ますが、体の大きさは周りに比較する対象がない場合は分かりづらく、注意して観察することが大事です（図 1～3）。

図 1　カラフトアオアシシギ　2018.09.01

図 2　アオアシシギ　2015.09.01

図 3　コアオアシシギ　2011.09.17

図 4　カラフトアオアシシギ

図 5　アオアシシギ

図 6　コアオアシシギ

嘴の比較（幼鳥）

嘴の形状の違いも重要な識別点です。姿勢や角度によっては、アオアシシギの嘴がコアオアシシギのように細く真っすぐに見えることや、アオアシシギの嘴基部が太く見えてカラフトアオアシシギに似て見えることもあります。

カラフトアオアシシギ（図 4）の嘴は太くてがっしりしています。基部が黄色味を帯び、先端部が少し上に反っています。アオアシシギ幼鳥（図 5）の嘴基部は鉛色がかっており、嘴の先端部がやや上に反っています。コアオアシシギ（図 6）の嘴は基部までほぼ黒く、細く真っすぐで先が尖っています。

翼下面の比較（幼鳥）

翼下面はカラフトアオアシシギが 3 種の中で最も白いです（図 7）。アオアシシギとコアオアシシギは下雨覆に褐色斑が入るためカラフトアオアシシギほど白く見えません（図 8 ～ 9）。

図 7　カラフトアオアシシギ

図 8　アオアシシギ

図 9　コアオアシシギ

採餌行動

カラフトアオアシシギは活発に動き回って採餌をします（図 10 ～ 11）。その活発な採餌行動もアオアシシギとの識別点になります。アオアシシギは春になるとボラなどの幼魚をよく追いかけています。逃げる幼魚を走りながら追いかけ活発に動きますが（図 12）、逃げない餌を取るときはカラフトアオアシシギのように動き回ることはありません。

図 10　カラフトアオアシシギ

図 11　カラフトアオアシシギ

図 12　アオアシシギ（成鳥）

図 13　カラフトアオアシシギ

図 14　アオアシシギ

図 15　コアオアシシギ

図 16　カラフトアオアシシギ

尾羽の比較（幼鳥）

３種とも尾羽に褐色の模様があります。撮影の角度が一定でなく、擦れの程度差もあるかと思いますが、尾羽の模様が違います（図 13～15）。

なお、カラフトアオアシシギにはアオアシシギやコアオアシシギには見られない水かきがあります（図 16）。

2019 年に渡来した幼鳥の換羽

16 年ぶりに松阪市に渡来したカラフトアオアシシギ幼鳥は 2018 年 8 月 24 日から同年 9 月 17 日まで滞在しました。渡来した時点で背・肩羽に灰色の冬羽が出ており、幼羽から冬羽に換羽初期の羽衣でした（図 17）。

初認日から 24 日経った終認日の 9 月 17 日には背・肩羽に冬羽が増えましたが、第 1 回冬羽と言えるまで換羽が進んでいません（図 18）。

図 17　カラフトアオアシシギ　2018.08.24

図 18　カラフトアオアシシギ　2018.09.17

図 19　ソリハシシギ　幼鳥　2010.08.14

図 20　ソリハシシギ　幼鳥　2010.08.21

ソリハシシギ

足が短く嘴が反っていて、ちょこまかとよく動く採餌をするソリハシシギは、遠距離またはシルエット状態の時はカラフトアオアシシギに似ており注意が必要ですが、ソリハシシギは全長 23cm しかありません。

ソリハシシギは毎年、春秋に渡来しますが、よく混群を組むキアシシギに比べると渡来数は少ない。松阪市では 2008 年まで春秋とも数十羽と言う群れを見ることはなく、10 羽までの小群が多かったです。渡来数が増え始めたのは 2009 年秋からで、雲出川河口で約 40 羽の群れが見られ、2010 年秋と 2011 年秋には推定で 100 羽を超えました。この 2 年間の渡来数だけが突出し、2012 年以降は秋も同河口で 20 羽を超える群れを見ることはまずありません。

図 21　ソリハシシギ　幼鳥　2011.08.11

ソリハシシギ幼鳥　サブターミナルバンドのバリエーション

ソリハシシギの幼羽は羽縁の内側に短いサブターミナルバンドがありますが、羽縁の消失は早く、フレッシュな幼羽でないとサブターミナルバンドで幼羽と冬羽は識別できません。図鑑でよく説明されている幼羽のサブターミナルバンドは羽軸とのＴ字斑（図 19）ですが、図 20 の幼鳥はＣ字斑です。図 21 の幼鳥は肩羽の一部と大雨覆にサブターミナルがかすかに見えますが、雨覆と肩羽の大部分にサブターミナルバンドはありません。これも幼羽のバリエーションの一つなのでしょう。

ソリハシシギ　第 1 回冬羽に換羽中

9 月から 10 月に見る幼鳥の多くはサブターミナルバンドが消失しています。冬羽は淡い灰褐色で、幼羽は冬羽よりやや褐色味が強いです。光線の具合によっては微妙な差でしかありません。図 22 は肩羽に灰褐色の冬羽とそれより褐色味が強い幼羽が肩羽、雨覆、三列風切に見られることで、幼羽から第 1 回冬羽に換羽中と分かります。

図 22　第 1 回冬羽に換羽中　2011.08.11

ソリハシシギ　第１回冬羽と成鳥冬羽

図 23 は手前が成鳥冬羽で、後ろが第 1 回冬羽に換羽中の個体です。成鳥冬羽には夏羽や幼羽に見られる肩羽上段の黒い羽がありません。成鳥は頭部からの上面が一様に淡い灰褐色ですが、肩羽の黒色斑が一部残る個体もいます。図 23 の後ろの個体は灰褐色の冬羽と褐色の幼羽が肩羽や雨覆に混在しており、第 1 回冬羽に換羽中の羽衣と分かります。図 24 は第 1 回冬羽です。上面の大部分が冬羽に換羽していますが、雨覆に褐色の幼羽が残っています。目立つ擦れもなくサブターミナルバンドも見えませんが、10 月 22 日の成鳥であれば旧羽は激しく擦れているはずです。

図 23　2013.10.22

図 24　2013.10.22

ソリハシシギ　成鳥夏羽と第１回夏羽

夏羽は冬羽より褐色味があり、肩羽上段の黒い羽が黒い線状になって見えます。羽の重なり具合で細い線状に見えたり、太い線状に見えたりします。図 25 の成鳥は 6 月の普通の夏羽個体です。各羽の摩耗が殆どありません。図 26 の個体は上面に擦れの激しい羽が多く、特に雨覆の擦れが目立ちます。擦れの激しさだけで第 1 回夏羽と決めつけるわけにはいきませんが、第 1 回夏羽の可能性が十分考えられます。第 1 回夏羽は幼羽、冬羽、夏羽が混在しているはずなのですが、幼羽だけでなく冬羽の擦れも激しくなる春以降には傷んだ羽のため、確たる識別はできません。

図 25　成鳥夏羽　2012.06.17

図 26　第 1 回夏羽　2012.06.20

最後に

カラフトアオアシシギは幼鳥しか観察できていないため、アオアシシギ、コアオアシシギとの比較に当たっては、図 12 以外は幼羽から第 1 回冬羽に換羽初期の羽衣を選んであります。

カラフトアオアシシギ（図 27）の採餌時の動きと背の低い体形はアオアシシギより、むしろソリハシシギ（図 28）に近いです。

図 27　カラフトアオアシシギ

図 28　ソリハシシギ

中井さん　ありがとうございました

津市　今井 光昌

熊野の地で精力的に鳥見をされていた中井節二さんが今年 3 月に永眠されました。野鳥の大先輩であり、仲よくして頂いた鳥友の突然の訃報にびっくりしました。65 歳は早すぎます。

昨年の秋、「検査のために三重大学病院に 1 週間ほど入院する。薬で症状を改善し、春になれば手術できるので、心配はいらない」と言うことでした。明るく元気に振舞っておられたので経過は良好なんだろうと安心していましたが残念な結果になってしまいました。

昨年の大晦日に「ナベコウが戻ってきたでぇ、嘴も足も赤くなったでぇ」と言う連絡を頂き、中井さんの案内で撮らして頂きました。春に来ていた幼鳥が戻ってきていました。「3 月まで居ればもっと赤くなるでぇー」とその時の中井さんの笑顔が今も忘れられません。大変お世話になった中井さんのご冥福をお祈りいたします。

写真は思い出のナベコウです。2018 年 4 月の幼鳥と 2018 年 12 月の若鳥です。

ナベコウ幼鳥

ナベコウ若鳥

2019 年　足見川へのサシバ飛来

四日市市　笹間 俊秋

２月の中旬に足見川のメガソーラー施設の建設着工の情報が入ってきた。以前から業者側の説明では営巣期は工事を控えると説明されていたので、本格的にサシバ飛来する時期を控えての着工は影響が大きく、その衝撃は大きかった。業者の説明によると、サシバの飛来は３月下旬から４月に入ってからのため、３月中旬までは全く問題ないので、それまで工事は普通に続けると住民説明会で話していた。着工が決まってしまったものは、我々では止める手立てが無いため、とりあえずサシバが無事帰って来てくれるのを祈るしかありません。

待ちわびた飛来

２月 25 日より着工が開始され伐採が始まった。一応、東エリアの波木ペアの営巣地は保護するという取り決めが三重県みどり共生課と業者との間で交わされました。野鳥の会三重としてもサシバが飛来したら県に報告するため、私は３月上旬から足見川での観察を開始しました。しかし、３月中にはサシバは観察されません。今年はサシバが来ないのではという不安になりながらも観察を続けていきました。そして、４月４日に山田地区へ行って見ると、上空に旋回する猛禽類がいました。待望のサシバです。翌日には私に向けて鳴きながら威嚇にくる山田ペア雄の姿が、そして、波木地区でもサシバ雄の飛来が確認されました。

雌の到着

山田ペア、波木ペア共に雄が、飛来し、縄張りを確認する様に旋回する姿が見られる様になりました。今度は遅れて飛来する雌を待ちます。すると４月６日には山田ペアが、12 日には波木ペアの雌が到着し、一緒にソアリングする姿が無事観察できました。

山田ペアのソアリング

餌渡しから交尾

サシバの雌雄がそろい 10 日ほどたったころ、４月 21 日には波木ペアの雄から雌へ餌渡しが、翌 22 日と 24 日の２回の交尾が確認されました。これで、今年も無事ここでの営巣が確実となりました。５月末日、現在、山田・波木ペアとも抱卵に入っています。

餌渡しをする波木ペア

サシバ交尾動画
YouTube
QR コード
スマホのカメラを向けてください。

工事の続行

営巣が確認されたサシバですが、３月下旬に工事は自粛すると言っていた業者が、４月下旬になっても相変わらず工事を続けていました。４月 24 日には波木ペア営巣地付近で相変わらず騒音をたてて工事している際中に大音響が鳴り響き、それに驚いた雌が慌てて飛び出して来て付近を警戒していました。かなり深刻な事態で営巣放棄にもつながりかねません。この状況を見ていた私と地元の方が三重県みどり共生課に報告しました。これを受けて県や経産省も動き、サシバが営巣放棄する様であればソーラーの設置許可を取り消すと警告し、強く指導されました。この後、業者も危機感を持った様で、営巣地周辺での工事は続いているものの騒音は控え静かになりました。

最後に

三重県の指導により営巣地の平穏は取り戻せました。しかし、業者がいつ問題行動するかわかりません。私もサシバの繁殖の邪魔にならない様に静かに観察して行きたいと思います。

国際サシバサミットへ参加してきました

四日市市　笹間 俊秋

2019 年 5 月 25 日、栃木県市貝町にて、国際サシバサミットが行われ、当会も足見川メガソーラー建設に伴うサシバ営巣地の危機を訴えるため、ポスター発表をしました。

樋口広芳氏　基調講演

当日は、越冬地のフィリッピン、中継地の台湾、沖縄県宮古市や繁殖地の市貝町の皆さん , そして、日本各地からサシバ保護活動や興味のある方が参加して市貝町の小貝小学校にて行われました。

午前中は市貝町、宮古島、フィリッピンの子供たちの活動報告、樋口広芳氏（東京大学名誉教授）の基調講演、昼休みは各地のポスター発表、午後からは各地からのサシバ保護・研究の成果が報告されました。

ポスター発表では、当会の報告にも多数の方が興味を持っていただけて、活発な質疑応答が行われ、足見川のサシバの状況を知ってもらう事ができました。

ポスター発表の様子

経ヶ峰風力発電計画に対する津市長の意見

経ヶ峰に計画されている２つの風力発電について反対署名は 12,670 筆が集まり、2019 年 5 月 17 日津市長、三重県知事に提出されました。

その後、津市長の意見が 5 月 27 日に知事宛に出されました。この中で津市長は「環境保全の見地から本事業計画は是認できるものではない。」と言い切っています。

理由として（８）経ヶ峰への眺望景観､及び経ヶ峰からの事業区域への眺望景観が問題として､「あらゆる選択肢を勘案して事業計画の見直しを検討すること。」と述べています。

また（９）人と自然の触れ合いの場では 「方法書において記載されていない経ヶ峰ハイキングコースが存在することも指摘されている。このことから登山者等の利用者からも聞き取りを行うなど利用状況等に関する調査及び予測を行い　―中略―　重大な影響のある場合、あらゆる選択肢を勘案して事業計画の見直しを検討し、これら重大な影響を回避又は極力低減すること。」とされています。

さらに、（６）動物に関してはクマタカの生息、サシバ及びハチクマ等の渡りの経路の可能性に言及し、事業の実施により繁殖効率の低下、風力発電への衝突、移動経路の阻害など問題点を指摘し、「鳥類への影響を回避または極力低減すること。」としています。

市長意見はこれまでの住民の意見を汲み取ったものですが、残念ながら、現在の環境影響評価では地元の意見に法的拘束力はありません。

今後さらに運動を進める必要があります。

（平井正志）

経ヶ峰

野鳥記録（2019 年 02 月 21 日から 2019 年 05 月 20 日までに報告があったもの）

野鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所（三重県）	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者名	脚注
アカハラ	1	2 月 24 日	四日市市垂坂公園		今西 純一	1
オオハム	1	1 月 25 日	鈴鹿市千代崎海岸	不明	山神 勝治	2
アビ	1	2 月　7 日	鈴鹿市千代崎海岸	不明	山神 勝治	3
ウミスズメ	7 ～ 8	2 月 25 日	津市白塚海岸	不明	山神 勝治	4
シマアジ	1	3 月 12 日	四日市市鈴鹿派川	雄・成長	山神 勝治	5
アメリカヒドリ	1	3 月 23 日	鈴鹿市千代崎漁港	雄	今西 純一	6
アリスイ	1	3 月 25 日	桑名市員弁川	不明	山神 勝治	7
ベニマシコ	1	3 月 30 日	四日市市垂坂公園	雌	今西 純一	8
ヒメウ	2	3 月 23 日	明和町大淀海水浴場沖		前田 聰	9
ハジロカイツブリ	3	3 月 18 日	松阪市雲出川河口上流		前田 聰	10
コマドリ	2	4 月 21 日	四日市市垂坂公園	雄	今西 純一	11
クロツグミ	2	4 月 22 日	四日市市垂坂公園	雄、雌	今西 純一	12
コマドリ	1	4 月 20 日	伊勢市宇治中之切町	雄	濱屋 勝則	13
エゾムシクイ	1	4 月 27 日	四日市市垂坂公園		今西 純一	14
サンショウクイ	1	4 月 27 日	四日市市垂坂公園		今西 純一	15
キビタキ	5	4 月 21 日	四日市市垂坂公園	雄	今西 純一	16
イワツバメ	10	4 月 29 日	四日市市垂坂公園		今西 純一	17
アカハラ	1	4 月 28 日	四日市市山村ダム	成鳥	山神 勝治	18
コルリ	1	5 月　2 日	四日市市垂坂公園	雄	今西 純一	19
ハシボソガラス	1	5 月　3 日	四日市市垂坂公園	（蟻浴）	今西 純一	20
ボナパルトカモメ	1	5 月　1 日	桑名市		山神 勝治	21
メダイチドリ	2	4 月　9 日	南牟婁郡御浜町	初認	清水 勝海	22
クロツラヘラサギ	1	4 月 16 日	南牟婁郡御浜町		清水 勝海	23
ホトトギス	1	5 月 17 日	四日市市市場町	初鳴き	三曽田 明	24

脚注

1. 第 1 回夏羽に近いと思われます。越冬していたのか渡り途中なのかは不明ですが、2 月上旬に見たという情報があるので越冬していた可能性が高いです。
2. 遠くで泳いでいたが、徐々に近くへやってきてくれた。
3. オオハムも居て 2 羽が並ぶ姿も見られた。
4. 餌の魚を捕るのにすぐ潜るので写真を撮るのに苦労しました。
5. こんなに早く見たのは、初めてでした。
6. ヒドリガモの雌と番いになっているようでした。
7. 毎年来ているのだが探すのに苦労します。
8. 垂坂公園では 2013 年 3 月以来 6 年振りに観察しました。渡りの途中に寄るのだと思います。
9. この周辺の海岸での観察は初めてだったので、投稿させてもらいました。
10. こんなにきれいに夏羽になった姿は、初めて観察できましたので投稿させてもらいました。
11. 垂坂公園では初めて観察しました。道を挟んで 2 カ所でさえずっていたため 2 羽以上の雄がいると思います。あまり人を恐れず、頻繁に山道に出てきて虫を捕っていました。
12. 雄、雌を 1 羽ずつ確認しました。非常に警戒心が強くすぐに飛んでしまいます。夏に観察したのは初めてです。
13. 渡りの途中だったのでしょう、翌日にも確認に行ってみたら同じポイントにまだいました。

14. 垂坂公園では初めて確認しました。他にセンダイムシクイもさえずっていました。
15. 高い場所で鳴いていましたがすぐに飛び去ってしまいました。いろいろな場所で声を聞きましたのである程度の数は入っていると思います。
16. 4/21 に初認（もう少し前からいたそうです）5 カ所でさえずりを聞いたので少なくとも 5 羽以上はいるようです。今年も繁殖が期待できます。
17. 10 羽以上が上空を飛び回っていました。たまに通過していくのを見かけます。
18. 毎年やって来るのを楽しみにしています。
19. 昨年も 5/6 にさえずりのみ確認しましたが、今年も姿は確認できませんでした。
20. 地面に伏せて蟻を浴びていました。写真左上から全体像、左下が蟻のアップ、右上はくちばしで蟻をつかんだところ、右下は蟻の巣（3 つあります）です。飛び去った後の地面を見てみると大量の蟻が右往左往していました。
21. この時期に、こんなカモメを見つけてびっくり。今度は、もっと近くで撮りたい。
    同定理由：ユリカモメより一回り小さな身体に黒くて細長い嘴と赤い足。
    詳細は、P-7 の「ボナパルトカモメ観察記」を参照下さい。
22. 初認
23. 同定：観察経験あり
24. 初鳴き

オオハム：山神 勝治

アビ：山神 勝治

ウミスズメ：山神 勝治

ハジロカイツブリ：前田 聡

コマドリ：濱屋 勝則

ハシボソガラス：今西 純一

ハシボソガラスの蟻浴

巣箱でのフクロウの繁殖

日本野鳥の会三重ではフクロウの巣箱を設置しています。これまで、県内４ヶ所に取り付けました。

そのうち、１ヶ所では 2017 年、2018 年、2019 年と毎年連続して２羽のヒナが巣立っています。その他の場所では残念ながら繁殖の兆候がまだ、見られません。

場所については、カメラマンや見物人が集中して繁殖を妨害することが想定されるので、公表しておりません。いずれもっと多くのフクロウが繁殖できるようになり、カメラマンなどのマナーも向上し、公表が可能となることを期待しています。

（平井正志）

事務局だより

活動の記録（2019 年３月～５月まで）

2019 年

３/11	（仮称）ウインドファーム津芸濃事業に係る環境影響評価方法書について意見書を提出
３/20	会報「しろちどり第 99 号」発行・発送作業
３/20	「経ヶ峰の自然・環境・景観を守るための要望書」への署名活動　開始
３/22	理事 中井 節二さんの葬儀参列
３月	平成 30 年度カワウねぐらコロニー調査事業委託　実施
３月	決算作業
４/14	臨時理事会
４/30	会計監査
５/14	モニタリングサイト 1000 鳥類生息調査へ協力（南勢地区）
５/17	県・津市へ「経ヶ峰の自然・環境・景観を守るための要望書」署名を提出
５/25~26	国際サシバ・サミット in 栃木（市貝町）へ参加（ポスター発表）

臨時理事会報告

2019 年４月 14 日（日）　津市雲出市民センター　出席：13 名（オブザーバー１名）

【協議事項】

●繁殖調査表　総会案内に同封し、総会に持ってきてもらう。
　ルート調査：宇賀渓、滝原宮、太平川、大杉谷、答志島、相差・畔蛸（６ルート）

●カワウ調査　来年度計画　調査地の一部を変更した。

●ガンカモ調査　来年度計画調査員の変更など　時間がなく話し合えなかった。

●総会

●しろちどり第 100 号

●おためし会員制度
　おためし会員：年間 1000 円、入会金不要　会員と同等の資格（探鳥会、宿泊探鳥会への参加、会報の受け取りなど）ただし、本部からの情報は届かない。１年限りとする。

【報告事項】

●足見川問題：作業の現状と申し入れ内容について報告
　　ジーヴァエナジーに要請文を出した (4/13)。今後の行動は情勢を見て決める。

●経ヶ峰風力発電　署名 5000 筆以上集まる。５月 17 日　津市長と会見予定

●決算および来年度予算

●野鳥記録　新システム：複数枚の写真が投稿できる。複数名で、内容を論議する。

●その他

今後の探鳥会予定　（詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください。）

●７月 28 日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
開催地／愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
集合／　9：00　愛知県弥富野鳥園
解散／ 12：00　集合地
●８月 17 日（土）　揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会
開催地／桑名市　多度町福永
集合／ 17：00 桑名市役所多度総合支所前 駐車場
解散／ 19：00　集合地
●８月 25 日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、７月 28 日と同じです。
●９月８日（日）　五主探鳥会　小雨決行！
開催地／松阪市　五主海岸
集合／　9:30　雲出川右岸堤防河口　五主海岸コーナー
解散／ 11：30　現地
●９月 10 日（火）　海蔵川で鳥見ｉｎｇ！
（バードウオッチング）その２　小雨決行！
開催地／四日市市西坂部町　海蔵川沿い
集合／　9：45　海蔵川代官橋 北詰
解散／ 12：00　集合地
●９月 22 日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、７月 28 日と同じです。
●９月 28 日（土）　多度山タカ渡り探鳥会
開催地／桑名市　多度山３合目
集合／　9：00　多度山登山口駐車場
解散／ 12：00　集合地
●９月 28 日（土）　香良洲海岸探鳥会
開催地／津市香良洲町　香良洲海岸
集合／ 13：00　香良洲公園駐車場
解散／ 15：00　集合地
●９月 28 日（土）　答志島タカ渡り探鳥会　※会員限定
開催地／鳥羽市　答志島 (定期船で渡ります)
集合／　7：30　鳥羽市佐田浜マリンターミナル
(8 時発答志行き乗船)
解散／ 11：30　現地
備考　／**参加予約必要**　小坂 里香 090-6097-3283
●９月 29 日（日）　伊勢タカ渡り探鳥会
開催地／伊勢市　伊勢やすらぎ公園
集合／　7：00　やすらぎ公園納骨堂前
解散／ 11：00　集合地
●９月 29 日(日)　みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
開催地／奈良県宇陀郡御杖村菅野　みつえ高原牧場
集合／　8：00　近鉄名張駅西口前
解散 ／ 12：00　現地
備考　／**参加予約必要**
玉田 浩司　090-8383-7535
田中 豊成　090-4088-3164
参加費　１人 300 円
● 10 月５日（土）　相津峠タカ渡り探鳥会
開催地／松阪市飯南町　相津峠
集合／　8：30　道の駅「茶倉」駐車場
解散／ 11：30　現地（相津峠）
● 10 月６日（日）　市木川河口及び水田探鳥会
開催地／南牟婁郡御浜町市木　市木川河口
集合／　9：00　道の駅「パーク七里御浜」
解散／ 12：00　市木川河口
共催　／御浜町・環境省近畿地方環境事務所・
熊野自然保護官事務所
● 10 月 27 日(日)　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、７月 28 日と同じです。

探鳥会報告（2019 年 3 月～ 2019 年 5 月）

●石垣池探鳥会
2019 年３月３日（日）10：00 ～ 10：50
鈴鹿市野町　石垣池
市川美代子　藤井英紀　参加者９名（会員６名）
ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 16 種

市の広報に掲載していただきましたので、会員外の方も来てくださったのですが、20 分ほどで雨となりました。50 分しか見ていただけませんでしたが、カモなど見て楽しんでいただけたようです。

●身近な冬鳥を観察しよう (安濃川河口)

2019 年 3 月 10 日（日）9：30 ～ 11：30
津市一身田上津部田・高洲町　三重県総合博物館・安濃川河口
共催団体／三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター
平井正志　木村京子（三重県環境学習情報センター）
参加者 40 名（会員 6 名）

ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、カワウ、ミヤコドリ、ユリカモメ、セグロカモメ、ハシボソガラス、スズメ、カワラヒワ　計 15 種

天気予報では雨が降り始めるとのこと、スケジュールを入れ替えて、まず先に安濃川河口に移動し、鳥を見た。当初ミヤコドリがいたのだが、参加者の子供が砂浜へ降りたので、逃げてしまった。河口対岸のカモ類を中心の探鳥会となった。

カンムリカイツブリが餌を取りながら河口を下り、よく観察することができた。その後博物館へ帰り、ミサゴなど鳥の標本を見て、鳥の足のつくりなどの話を聞いた。高校生、小学生など若い参加者が多かった。

●海蔵川で鳥見 ing!(バードウオッチング)

2019 年 3 月 12 日（火）9：45 ～ 11：30
四日市市西坂部町　海蔵川沿い
川瀬裕之　　参加者 8 名（会員 6 名）

キジ、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト　計 18 種

今年度最後の探鳥会でしたが、はっきりしない天気で、午後から雨が降りそうな肌寒い空模様の中、開催となりました。今年はキンクロハジロなど冬鳥がやってくるのが遅く、前回は見ることが出来なかったカモ類が今回見ることが出来ました。川面にはコガモやホシハジロ、空高くにヒバリやツバメが飛んでいる冬から春に向かう真っ只中という感じのなか、最後に海蔵川のアイドル、カワセミを見て心穏やかのうちに閉会となりました。

ベニマシコ

●宮リバー公園探鳥会

2019 年 3 月 16 日（土）8：30 ～ 11：30
度会郡度会町　宮リバー度会パーク
小坂里香　濱屋勝則　　参加者 27 名（会員 12 名）

オシドリ (2)、マガモ、カルガモ、コガモ、カワアイサ (1)、カイツブリ (3)、キジバト、カワウ、ダイサギ、アマツバメ、イカルチドリ、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、ドバト　計 32 種

本部広報の初心者公開探鳥会ということで参加者数が予測できず心配しましたが、程良い人数で、雨にも降られず、早春の観察会を皆で楽しみました。カラ類などの小鳥が思うように観察できませんでしたが、ツグミやムクドリといった基本種をしっかり覚えてもらい、渡ってきたばかりのツバメやオシドリ・カワアイサといった少し珍しい野鳥も観察してもらえました。公園内でみられる野鳥のビンゴカードを写真入りで作成しましたが、図鑑代わりに使用できよかったと思います。

●木曽岬干拓地探鳥会探鳥会

2019 年 3 月 24 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 23 名（会員 17 名）

キジ (2)、オカヨシガモ (20)、マガモ (5)、カルガモ (25)、ハシビロガモ (30)、コガモ (204)、ホシハジロ (30)、キンクロハジロ (5)、カイツブリ (9)、キジバト (5)、カワウ (80)、アオサギ (9)、ダイサギ (3)、オオバン (38)、ケリ (6)、コチドリ (5)、クサシギ (1)、イソシギ (2)、カモメ (1)、セグロカモメ (1)、ミサゴ (5)、トビ (1)、チュウヒ (4)、ハイタカ (1)、オオタカ (1)、ノスリ (2)、カワセミ (1)、チョウゲンボウ (1)、ハシボソガラス (35)、ハシブトガラス (10)、ヒバリ (10)、ツバメ (3)、ヒヨドリ (5)、ウグイス (1)、メジロ (1)、ムクドリ (30)、ツグミ (3)、ジョウビタキ (1)、スズメ (50)、ハクセキレイ (12)、セグロセキレイ (10)、タヒバリ (5)、カワラヒワ (7)、シメ (1)、ホオジロ (13)、アオジ (1)、ドバト (30)　計 47 種

ツグミやカモ類などの冬鳥はまだ残っていましたが、夏鳥のツバメも観察できました。チュウヒ、ノスリ、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウと、猛禽類も姿を見せてくれました。

●篠田山探鳥会

2019 年 3 月 24 日（日）9：30 ～ 11：30
松阪市久保町　篠田山斎場
中村洋子　西村四郎　　参加者 18 名（会員 17 名）

キジ、キジバト、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ　計 18 種

ウグイスの鳴き声があちらこちらから聞こえました。霊園奥の田んぼ半分は耕作放棄されている。これ以上増えないでほしいと思います。以前はカシラダカ・ホオジロ等がたくさんいたのに残念です。今回はアカハラ・シロハラがじっくり観察できました。

●五主探鳥会

2019 年 4 月 13 日（土）9：30 ～ 11：30
松阪市　五主海岸・大池
西村四郎　小野新子　　参加者 18 名（会員 15 名）

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ダイゼン、シロチドリ、タシギ、オオハシシギ、ツルシギ、エリマキシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、トビ、チュウヒ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ　計 36 種

昨年は潮干狩りの車でごった返していたので、今年は少し潮位が高い時間にしました。さすがに潮干狩り客はほとんどいませんでしたが、シギチ・カモの姿も遠かったです。堤防から観察を始めました。近くの干潟でダイゼン、シロチドリはいますが、他のシギチは見られません。カモは一見スズガモばかりでしたが、各種カモもいるし、夏羽になっているハジロカイツブリ等発見がありました。その後、大池へ移動し、ツルシギ、オオハシシギ、エリマキシギを確認しました。毎年徐々に少なくなっていくけど、来てくれるだけで良しです。また、シマアジが見られたのは嬉しいことでした。確認種は 36 種と五主としては少なかったですが、最後にチュウヒが出て締めとなりました。

●五十鈴川上流探鳥会

2019 年 4 月 20 日（土）6：30 ～ 8：30
伊勢市宇治今在家町　五十鈴川上流
中西 章　　参加者 16 名（会員 11 名）

キジバト、アオバト、サシバ、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ　計 23 種

五十鈴川のせせらぎと木漏れ日の中、鳥たちのさえずりも多く、絶好の探鳥会日和でした。

過去の探鳥会では現れたことのないアオバト・サンショウクイ・センダイムシクイなど、声ではなく姿をしっかり見ることができました。

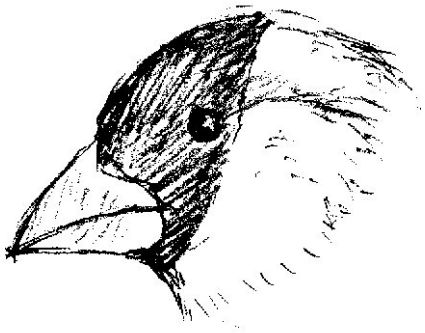
最後の鳥合わせの時にサシバが「ピックイー」と上空を飛んでくれました。

●香良洲海岸探鳥会

2019 年 4 月 27 日（土）13：00 ～ 15：00
津市香良洲町　香良洲海岸
今井光昌　今井鈴子　　参加者 17 名（会員 13 名）

キジ、マガモ、スズガモ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、シロチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、アカハラ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト　計 26 種

強風 13 m/s の日になりました。海岸堤防は歩くのも難儀で、堤防下を歩いての探鳥になりましたがいつも居る鳥まで、干潟にはほとんど鳥の姿はありません。強風で鳥たちも避難していたのでしょう。探鳥会のメイン場所である海側より、帰路の松林公園内の小鳥の探鳥が主になりました。公園でアカハラが盛り上げてくれました。アオサギが松林で子育てをしていました。風が強く思うような鳥見をできなかったですが、十分楽しめたと思います。



イカル

●木曽岬干拓地探鳥会探鳥会

2019 年 4 月 28 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
笹間俊秋　参加者 12 名（会員 10 名）

キジ (5)、マガモ (4)、カルガモ (11)、コガモ (35)、キジバト (5)、カワウ (100)、アオサギ (3)、ダイサギ (5)、チュウサギ (1)、ヒクイナ (1)、オオバン (2)、ケリ (15)、コチドリ (2)、タシギ (1)、チュウシャクシギ (11)、クサシギ (1)、イソシギ (2)、ミサゴ (3)、ハチクマ (2)、サシバ (14)、ノスリ (1)、チョウゲンボウ (1)、ハシボソガラス (20)、ハシブトガラス (10)、ヒバリ (12)、ツバメ (50)、ヒヨドリ (3)、ウグイス (4)、オオヨシキリ (3)、セッカ (5)、ムクドリ (20)、ツグミ (2)、スズメ (35)、ハクセキレイ (2)、セグロセキレイ (1)、タヒバリ (1)、カワラヒワ (15)、ホオジロ (2)、ドバト (110)　計 39 種

大型連休中でいつもより参加者は少なめで、高速など渋滞しており遅れてくる参加者もみえました。前日は強風でしたが、この日は穏やかな晴れで、上空にはタカ柱が出来ていて春の渡りが見られました。木曽岬でサシバ 14 羽も見られたのは初めてです。干拓地ではオオヨシキリの鳴き声も聞こえ、ツバメが飛び回り、水田にはチュウシャクシギが 7 羽も入っていました。春の渡りを実感できた探鳥会でした。

●上野森林公園探鳥会

2019 年 4 月 28 日（日）9：00 ～ 11：00
伊賀市下友生松ヶ谷 1　三重県上野森林公園
共催団体／上野森林公園・三重県環境学習情報センター
田中豊成　南 一朗　　参加者 15 名（会員 5 名）

ホシハジロ (1)、キンクロハジロ (5)、キジバト (2)、カワウ (1)、アオサギ (1)、ダイサギ (1)、オオバン (1)、トビ (1)、サシバ (5)、コゲラ (1)、チョウゲンボウ (1)、サンショウクイ (1)、ハシボソガラス (数羽)、ハシブトガラス (数羽)、ヤマガラ (3)、シジュウカラ (6)、ツバメ (数羽)、ヒヨドリ (2)、ウグイス (数羽)、エナガ (約 15 羽)、センダイムシクイ (3)、メジロ (数羽)、コサメビタキ (2)、キビタキ (4)、カワラヒワ (2)、ホオジロ (数羽)、コジュケイ　計 27 種

キビタキやセンダイムシクイがよく囀ってくれました。コサメビタキは 2 羽で、巣材のコケをくわえていたので営巣中だと思います。上空では、サシバ 5 羽が北東に移動するのが観察された。林中でエナガ巣立ちビナ 10 数羽が親からエサをもらっていた。春を感じた観察会でした。

●鈴鹿川派川探鳥会

2019 年 4 月 29 日（月）9：30 ～ 11：30
四日市市楠町南五味塚　鈴鹿川派川河口 右岸
安藤宣朗　　参加者 9 名（会員 5 名）

キジ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、シロチドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、コアジサシ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ドバト　計 34 種

10 連休の関係があるのか？常連さんの参加が少なく 9 名の参加者だった。それでも子どもさん連れの参加、京都からの参加者など家族的な雰囲気の中、ゆっくりと楽しめた探鳥会であった。まだ北帰をしてないコガモ、ヒドリガモなど 7 種のカモ類やお目当てのシギ・チドリ類 トウネン、メダイチドリ、キョウジョシギなど 8 種類、上空を飛び交うコアジサシも見られ、その他を合わせて合計 34 種類を観察した。

●瀬戸林道探鳥会

2019 年 5 月 6 日（月・祝）9：30 ～ 12：15
津市美里町桂畑　瀬戸林道
奥山正次　落合 修　　参加者 17 名（会員 10 名）

カワウ、アオサギ、サシバ、クマタカ、アカショウビン、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 27 種

天候に恵まれ、幼い姉妹連れのご家族や、甲賀市から参加の方もみえて、例年より賑やかな探鳥会になりました。ツバメとコシアカツバメの巣を見てからイワツバメの営巣地へ立ち寄り、その後林道へ入りました。しばらく歩くと「キョロロロ・・・」と 3 度ほど、山の背後からアカショウビンが歓迎の声をあげてくれました。次に、幼鳥と思われるカワガラスが現れ、10 分くらい採餌行動を見せてくれたので堪能しました。帰路にはクマタカが見送りに出てくれ、終了前には順光できれいなオオルリが松の樹上で別れを惜しんでくれました。

●金剛川河口探鳥会

2019 年 5 月 13 日（月）9：30 ～ 11：30
松阪市高須町　金剛川河口
中村洋子　小野新子　　参加者 18 名（会員 14 名）

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ケリ、ダイゼン、メダイチドリ、ミヤコドリ、シベリアオオハシシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、ハマシギ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ　計 36 種

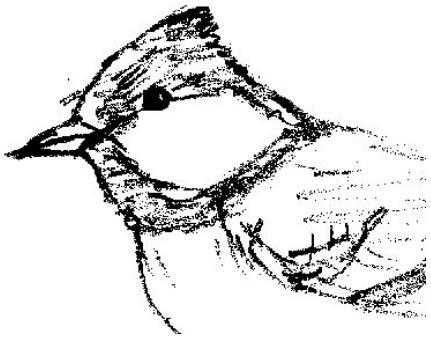
集合場所の空でケリがトビにモビング、その下で子育てをしているようだ。キアシシギ、ハマシギが堤防の下、石積に並んでいて羽根の色の違いがよく分かりました。（キアシシギはグレー、ハマシギはオレンジ）河口では、ミヤコドリが砂浜で休んでいた。オオソリハシシギの中にシベリアオオハシシギが一羽いると参加者に教えてもらいました。近くにオオソリハシシギがいて、ひと回り小さいのがシベリアオオハシシギでした。

●海蔵川で鳥見 ing!(バードウオッチング)

2019 年 5 月 14 日（火）9：45 ～ 11：30
四日市市西坂部町　海蔵川沿い
川瀬裕之　　参加者 4 名（会員 4 名）

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ケリ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ドバト　計 21 種

集合場所で待ってる時にもポツリポツリと雨が降ってきていたので、今回は参加者は誰もいないかな？と思っていたら、参加者が来るころには何とか雨も上がっていたので開始する事ができました。ハクセキレイが元気よく出迎えてくれ、川面にいつも浮かんでるカルガモたちは周辺の田植えの始まった田んぼに遠征しているようで、ほとんど姿がみられませんでした。甲高い鳴き声と共に水面すれすれのところをカワセミが飛び、曇り空をヒバリがにぎやかにさえずっていました。田んぼにはきれいな飾り羽をつけたチュウサギが餌をついばみ、河畔林ではオオヨシキリのさえずりが聞こえて、暦の上ではもう夏なんだなと感じて、今にも泣き出しそうな空を見上げて足早に解散となりました。



ヒガラ

編集後記

この号は記念すべき 100 号ということで、巻頭では、しろちどりの歴史を紡いでこられた大先輩方に思い出を語ってもらった。

最近になって編集に携わるようになった私にとっては、「へぇ～、そうだったの～」という発見とともに、これまで絶えることこなく発行し続けられてこられた先輩方に敬意を払いたいと思った。

また当会のホームページでは、今年に入ってようやく全てのバックナンバーの PDF 化が終わり、それらを公開した。創刊号は 1993 年 5 月の発行と 26 年も前のことで、それには 46 号でも特集している 2004 年に 91 才で亡くなられた橋本太郎氏の文章もあり、新参者の私でも頷けることが記されている。

しろちどりは、最新の情報を会員のみなさんにお伝えするとともに、先人の知恵や野鳥の記録を後世に伝える大事な会報誌であることを再認識し、これを肝に銘じたい。(A.M)

しろちどり 100 号
2019 年 6 月 30 日発行
題　字 : 濱田 稔
表紙絵 : 田中 豊成
カット : 平井 正志
編　集 : 平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所 : 日本野鳥の会三重
平井 正志　方
〒 514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷 : 株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市